




「おおおっふ、深っすごく深いっ」



立ちフアツクの体勢で繋がった瞬間、真子先生の瞳がとろけ、白目を剥きかける。美馬の強靱な腕が彼女の身体をがっしりとホールドし、容赦なく腰を打ち上げ始める。

「ぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅぬちゅ・・・」


激しい前後&上下運動が始まる。真子先生の身体が美馬の逞しい腰の上で激しく上下左右に跳ねさせられる。巨大な乳房がぶるんぶるんと大きく波打ち、汗が飛び散り、乳首が硬く尖って空気を切る。

「んおおおっ  皇くんのデカチン当たってるう  
ほぎいいい  イグイグイグウウ  」



「せ、先生・・・オマンコ、締め過ぎだって  」

真子先生は美馬の首に両腕を回し、夢中でしがみつ  
きながら獣のような喘ぎ声を上げ続けた。

彼女の美しく長い髪が乱れ、汗で肌に張り付き、完  
璧な美貌が完全に淫乱アへ顔に歪む。美馬は低く唸  
りながら、強靱な下半身で真子先生を容赦なく突き  
上げ続けた。



「ぎぎぎ  流石に、もう、俺、限界！」

美馬が歯を食いしばりながら、叫んだ。

「一緒にイって  一緒にイってえ  」と真子先生。

「だあああ  出る出る！あ！イックううう  」

舌出しアクメをキメる美馬。

「ほぎやああん  あ、熱いいい  ドピドピ出てるう

う  んがあ  んがあ  子宮に・・・ザーメン直撃い

い  ・・・あああ・・・赤ちゃん・・・出来ちゃうう

うううう  」美馬に抱きついたままでヒクヒクと痙

攣する真子先生。

「おお！まだ・・・出るぞ！」と美馬。

（中出し！羨ましい！お、俺なんか！ノーハンドで  
びゆるびゆる射精してるだけなのに・・・★）

俺がそう感じた瞬間、今度は萌先生の野獣のような  
声が響いた。

「ぐわわ！わわ！・・・イックううマジ！イック

うううう」



声がする方を見ると、萌先生が山崎にバックで丁度イカされたところだった。よく見ると、萌先生の下半身がピクピクと痙攣している。そして、結合部からは白濁の液が吹き出していた。

(うお★こっちも中出しかよおお★)

「きき、きもち・・・いいん♥」アへ顔の山崎。

「す、すんごい量♥マジで妊娠しちゅううう♥」  
萌先生は涙と鼻水で顔面をぐちゃぐちゃに濡らしながら、とんでもなくスケベな表情で言った。

二人の美女はめでたくイケメンから強々ザーメンを中出しされ、アへ顔で呆けた。

「ふう♥マジでサイコ♥」

美馬が精液をティッシュでふき取りながら言った。

「まだ満足できねーよ♥もつとやろうぜ！」

山崎はそう言うど勢いよく立ち上がった。

「も、もう・・・流石に限界よ・・・♥イキ過ぎて腰が・・・動かないわ♥」萌先生も真子先生もイキ過ぎて起き上がることができない様子だ。

